

新宮山彦ぐるーぷ第2034回

平治宿の雨漏り対策などと持経宿に匂い消し剤散布

◇実施日；2019年7月29日(月)晴 ◇参加者；村吉光夫。
◇実施日；2019年7月31日(水)晴 ◇参加者；梶野照雄。
計2名。

7月29日(月)

10時頃に池郷林道に入る。ありがたいことに前日に行った人が石を除けてくれているので、車を降りることなく持経宿に到着。休むと足が重たくなるので、すぐに平治宿に向かうことにする。バスの時刻表を張ることと床が濡れているので窓を開けて乾燥させるのが目的である。

12時頃に平治宿に着いて扉を開けると本当に床が濡れている。板の中心線から乾き始めているので床全体が縞模様。入口近くには60ℓザックが置かれている。誰か水場に行っているのだろうか。窓を全開にして一息ついていると水場から独りの男性が戻ってきた。普通に立っていて血色も至って普通で落ち着いていたのだが、この男性から出てきた言葉は「足の動脈を切った」だった。

水場で素裸になり水浴びをしながら、アブを払おうとして体を捻った拍子に転倒したとの事。男性の落ち着いた様子から私は事の重大さを感じられずにいた。我ながら間の抜けた対応をしていたように思う。

男性は『ココヘリ』を持っているので、これを作動させると言っただけで爪楊枝がないかと言う。私は『ココヘリ』を知らず、対応するにもテンポが鈍い。結局本人が爪楊枝を出して作動させる。

男性は携帯が通じないので救助要請が出来ないと言っているが、平治宿はドコモが快適に通じる所だ。彼の携帯はドコモでは無いので私の携帯で救助要請をすることにした。

119番を押して・・・通話ボタン？ 携帯の反応がおかしい。2回やっても同じで上手くいかない。吉野消防署に通常の番号で通話することにした。これは即OK。事情を話してトントン拍子で、奈良県防災航空隊との直接連絡になる。

怪我の状況については本人に話してもらい、小屋の位置や救助作業に関わる事は私の役割。救助隊員が降下できる空間があるか、降下地点の足元に危険は無いか、ヘリコプターの風圧で小屋の屋根が飛ばないか、接近したヘリコプターに合図する懐中電灯は有るか、隊員の降下の際には風圧を避けるため小屋の中に入るようにatc...

小屋前の古くて腐ったいす用の丸太を全部除けて、焚火の囲いの石も大きめの物は除けて、男性には小屋に移動してもらって、ヘッドランプも用意した。

準備万端整えて待っていると電話がかかり「20分後くらいに到着します」。何だいまだかい。でも具体的な時間が出たので落ち着く。18分くらいした時にバリバリバリとヘリコプターが接近、ヘッドランプの出番だと張り切ったが上空に来ない。

すぐ近くで旋回する事3回。1回目・・・もうちょっとこっちだぞオ、2回目・・・なんで同じ所で旋回するんだ、3回目・・・こっちだつてば、ちょっと焦ってきて航空隊に電話をかけたなら「すでに隊員が降下しています」との事。

小屋から北に50mの地点に降下し、隊員が一人歩いて小屋に来ました。怪我の様子を確認し「隊員をもう一人下ろして降下地点から担架で上げます」。念入りに安全確保の準備をし、二人の隊員が担架を持ち50m移動、私が男性のザックを背負い続く。わずかに空が見える程度の木の枝が他より疎らな地点で担架が置かれた。男性はベルトで担架に固定された状態で吊り上げを待っている。「仕切り直してまた来て下さい」と声を掛けてその場を離れた。携帯電話の操作ミスは我ながら情けないが、吉野消防署の通常の番号に電話することに躊躇なかった。何年前になるだろ

うか。消防署長が玉岡さんの招待で行仙の小屋に一泊したことがあったので、こちらが勝手に馴染みがある。当然人も代わっているだろうが、そんな出会いが今に役立つように思う。

防災航空隊の電話対応もこちらをパニックにさせないよう気配りされているし、実際に降下してきた隊員も無駄のない動きを見せていた。日頃の訓練を感じさせるものだった。

持経宿に戻るとトイレ汲み出し後の臭いが酷く、宿泊を取り止め帰宅して沖崎代表に報告する。

(記：村吉)

7月31(水)

平治宿小屋の床が濡れている問題で、煙抜きから雨水が入っていると村吉さんから報告があった。至急に対策が必要とのことから、ブリキ板、コーキング材、工具を持って平治宿へ向かった。

今日は一人なので、いつもと違うところを歩こうと思い、林道途中から中又尾根経由で登った。



朝日を浴びる石ヤ塔



中又尾根分岐で休憩



煙抜きの天井部分

暑いので、ゆつくり休憩しながら奥駈道まで1時間ほどかかった。平治宿に到着、床はしっかりと濡れている、煙抜きを内側から観察

すると、木材は腐って白いカビが生えていた。すぐに脚立を立てて屋根に上って外側をチェックする。トタンに穴は無いが、コーキングに隙間が見られた。どこから雨水が侵入しているのかは不明だが、隙間のゴミを取り除いて、コーキングを追加した。40分ほどで作業を終える。持ってきたブリキ板は資材置場に残した。7月29日に平治宿水場で怪我をした人がいたようなので、水場の点検に降る。水場までの道には異常がない。水場の水量は多く、ガレ沢を回り込んだところからも水音が聞こえていた。

怪我人は、切創でかなり出血したと思われるので、血痕が残っていないか探したが、何も発見できなかった。下北山村のアメダスで、30日の夕方に30mmの降雨が記録されているので、雨で流されてしまったと思われる。



煙抜きの屋根部分



コーキングを施す



ブリキ板は物置へ

小屋に戻って昼食を摂りながら内部を見渡してみる。入口付近はあまり濡れていないが、奥(南側)の濡れ方が激しい。煙抜きから雨水が入ったのなら、入口付近が一番濡れて、奥に行くほど濡れ方は少ないはずである。現在の状況では、人為的に水がまかれたと考えるのが妥当だと思う。



水場は潤沢に流れる



奥の濡れ方が激しい



本日の参加者

消火器が無くなって、志納箱を触ると警報機が鳴る。目的が達せられないので腹いせに、との行為ではなかるうか。同一犯であるなら、なんとも執念深い行為である。
取敢えず監視カメラの設置を急ぎたい。煙抜き木材の腐食も早期に処置する必要がある。工法については専門家のアドバイスが必要だ。



林道に帰着



持経宿に到着



防虫消臭剤など

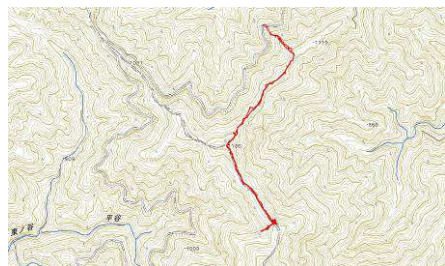
お昼過ぎに平治宿を離れて、来た道を引き返す。中又尾根でピークを捲こうとして斜面を下りすぎ、登り返しに余計な時間を食ってしまった。楽をしようとするところがよくない。
林道に戻って持経宿に向かう。10分ほどで持経宿に到着。



消石灰を撒く



防虫消臭剤を便槽にも撒く



本日の行程

車から降りても、アレ！汲取りの匂いがしない。小屋西の斜面の笹をかき分けながら降りてみるが、匂いも無いし残骸も見当たらない。
昨日の雨で流されてしまったようだ。用意してきた消石灰と防虫消臭剤を適当に撒いて小屋に戻った。防虫消臭剤は便槽にも撒いた。
お湯を沸かして、ザックに入っていた紅茶を入れて、ゆっくり休憩した後、帰路についた。

行動タイム

林道・中又尾根登山口 09:05 → 10:03 奥駈道・中又尾根分岐 → 10:09
↓ 10:25 平治宿 12:05 → 13:34 林道・中又尾根登山口 → 13:46 持経宿 14:25 下山。
(記：梶野)